

## 事務事業評価表（公共施設）

評価対象年度	平成 25 年度
1次評価日（主幹等）	26年3月31日
2次評価日（課長等）	26年3月31日

1 事業名	美術考古館管理事業			コード	111106	
2 担当部課	部等	教育部	課等	生涯学習課（博物館）	作成者	両角 加代子
3 事業概要	目的体系	基本目標	生涯を通じて学び、豊かな心を育むまち			
		政策	文化・スポーツの振興	施策	文化・芸術の振興	
		予算科目	美術考古館管理事業費	業務委託	なし（直営）	
		実施義務	あり（義務的・標準的事業）	国県補助	なし	
		設置条例	市立岡谷美術考古館条例			

## ●事業の内容（D0）

4 施設の概要・設置目的		*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）	
施設の概要 （簡潔に）	郷土出身の作家を中心とした美術作品及び、市内遺跡から出土した貴重な考古資料を収集・展示する生涯学習施設。 まちなかの賑わいの創出を図る拠点施設。		
目的	対象者	市民及び来館者	
	意図	市民の芸術文化の振興、まちなかの賑わいの創出	

5 施設の管理運営状況	
指定管理者	25年度指定管理料 円
施設における通常業務	美術考古館の開館 来館者の案内・施設の維持管理・修繕・図書資料等の販売
事業の実施内容	(25年度に施設で行った運営事業・自主事業など) 平成25年度 開館日数…120日 入館者数…6,839人（1日あたりの利用…56.99人） 特別企画展…開館記念「小磯良平版画展」 企画展…「中国復元古代絹織物展」「岡谷市内小学校児童版画展」 美術展示…「岡谷に生きる」「辰野登恵子～不毛なものたちの世界～」 考古展示…「琥珀・翡翠・コダイノヒカリモノ」
前年度の課題への対応	美術考古館は、11月3日に開館した。

6 施設の利用状況		*②・③はどちらかの欄に記入			
区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)	
① 施設稼働率	100.0%	100.0%	100.0%		
年間開設日数（日）	307	57	120	302	
1日の開設時間（時間）	8	8	9	9	
年間利用可能時間（時間）	2,456	456	1,080	2,718	
年間利用実績（時間）	2,456	456	1,080		
② 年間利用者数（人）	7,368	2,607	6,839	13,430	
有料利用者数	4,391	1,830	873	6,860	
無料利用者数	1,465	266	2,584	5,070	
減免措置者数	1,512	511	3,382	1,500	
③ 年間利用件数（件）	0	0	2	14	
有料利用件数			1	11	
無料利用件数			0	0	
減免措置件数			1	3	
④ 1日あたり利用者数、件数	24.0	45.7	57.0	44.5	
⑤ 施設利用状況の説明					

## 7 コストの推移

\* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
① 直接事業費	5,259,192	17,364,788	8,466,592	11,842,000
経常経費	5,259,192	6,684,619	2,660,239	11,640,000
臨時的経費	0	10,680,169	5,806,353	202,000
* 臨時的経費の説明				
区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
② 人件費	9,440,000	18,720,000	9,600,000	10,400,000
正規職員の人数(人)	1.18	2.34	1.20	1.30
③ 合計コスト(①+②)	14,699,192	36,084,788	18,066,592	22,242,000
前年度比		245.5%	50.1%	123.1%
財源内訳				
一般財源	12,511,233	33,792,829	16,600,376	19,647,000
特定財源	2,187,959	2,291,959	1,466,216	2,595,000
* 特定財源の説明				
④ 施設使用料年間収入額	1,350,200	561,750	468,375	2,029,000
⑤ 年間減免措置額	529,200	178,850	1,183,700	525,000
⑥ 受益者負担割合	35.7%	4.3%	19.5%	21.6%
⑦ 活動一単位あたりコスト	1,995	9,745	1,792	
前年度比		488.5%	18.4%	
⑧ コストに関する補足説明				

## ●事業の評価(CHECK)

### 8 妥当性評価

\* 妥当性＝行政がこの事業を行う必要性はあるか。

妥当性

高い

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。	1	
② 民間（企業、NPO、市民団体等）へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間（企業、NPO、市民団体等）が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

### 9 有効性評価

\* 有効性＝施設の利用状況（項目6/住民の満足度）は向上しているか。

有効性

標準

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、事業の内容に反映している。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ 施設の利用者が増加した。 1日あたり利用者数、件数 前年度比 124.6%	1	
⑤ 施設使用料収入が増加した。 施設使用料年間収入額 前年度比 83.4%		0

## ●改善の内容(ACTION)

### 10 具体的な課題と改善

課題	(施設の有効活用、施設サービスの向上、利用状況の向上を図る上で、現在課題になっていること) 効率的な管理・運営の実践。 入館者数の確保。	
改善方法	(上記の課題をふまえて26年度以降に実施する、具体的な改善の内容) 生涯学習課文化財担当と一緒に管理・運営を行う。それに伴い、様々な考古関連のワークショップの開催が可能となる。 美術・考古・企画の展示のみならず、交流ひろば、ステーションを様々な活用することにより、来館者を増やしていく。	
改善開始時期	平成26年4月	

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による26年度の優先度 *H24年度施策評価表より転記すること	A
-----------	--------	---	---

13 大規模修繕の予定			
	予定事業費	円	予定時期
内容			